

部局名	子ども部	所属名	元気子ども課	所属長名	武藤 州範	電話	483-1151 内線2260
-----	------	-----	--------	------	-------	----	-----------------

## 1. 事務事業の位置付け・概要 (PLAN)

コード	3792	事務事業名称	乳幼児医療費助成事業				短縮コード	経常	3792	臨時	3903	
予算区分	会計	01	一般会計	款	03	民生費	項	02	児童福祉費	目	01	児童福祉総務費
区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他		根拠法令等		八千代市乳幼児医療費の助成に関する条例							
事業概要 (事務事業を開始したきっかけを含めて記入)												
乳幼児の保健対策の充実及び保護者の経済的負担の軽減を図り、もって乳幼児の保健の向上及び子育て支援の充実に寄与することを目的とし、県の補助事業として昭和48年度から開始。平成18年度は助成対象を拡大し、健康保険が適用された医療費の一部負担金のうち、平成18年7月診療分までは0歳～3歳児の入院・通院及び4歳～義務教育就学前児の7日以上継続した入院にかかるもの、平成18年8月診療分からは0歳～義務教育就学前児の入院・通院にかかるものを助成した(入院1日・通院1回につき200円の保護者負担あり。但し、市民税所得割非課税世帯は負担なし)。												
事務事業を取り巻く状況の変化 又、今後の変化の推測				総合計画の施策体系	5本の柱(章)	01	健康福祉都市をめざして					
当初は、義務教育就学前児の15日以上継続した入院と0歳児の通院が助成対象とされ、所得制限が設けられていた。また、県の補助率は10/10であった。少子化の進行に伴い、次世代育成支援の観点から助成内容の拡充が図られる一方、県の補助率は引き下げられた(平成15年度から、0歳～2歳児の入院・通院と3歳～義務教育就学前児の7日以上継続した入院が県の補助対象となり、所得制限が廃止され、助成方法が現物給付化された。また、平成18年8月診療分からは、0歳～義務教育就学前児の入院が日数に関わりなく補助対象となった。一方、平成5年度から、県の補助率は1/2となっている)。今後も拡充が進むと考えられるが、他の公費負担医療制度が縮小方向にあるため、県の補助率の更なる引下げと、他制度からの対象者流入に伴う支出増が懸念される。					大項目(節)	01	保健・医療					
					中項目	02	医療					
					小項目(施策)	01	地域医療体制の整備・充実					
					細項目	02	医療費の給付等					
					実施計画の計画事業							
				計画事業の位置付けの有無	<input type="checkbox"/>		計画事業期間	平成18年4月 ~ 平成19年3月		計画事業費	千円	

## 2. 事務事業の目的・指標・実績 (DO)

対象 (誰を何を対象にしているのか)	八千代市に住所を有する義務教育就学前の乳幼児の保護者。						
手段 (具体的な事務事業のやり方、手順、詳細)	※平成18年度に実際に行ったこと: I 受給資格の管理: ①申請・変更届・喪失届の受付・審査・電算入力・確認・通知 ②医療費助成受給券の交付・回収 II 医療費の助成: ①現物給付一国保連合会からの請求の確認・支払 ②償還払い申請の受付・審査・電算入力・確認・通知・支払 ③医療機関・保険者との確認・調整 III 制度の案内・広報: ①窓口・電話での対応 ②案内書類等の配布・送付 ③広報・HPへの掲載 IV 県補助金の申請: 所要額調べ・交付申請・実績報告の電算入力・集計・作成 ※平成19年度に計画していること: I～IVは平成18年度と同じ。 V 上位法改正への対応: システム変更						
意図 (何を狙っているのか)	乳幼児の保健対策の充実及び保護者の経済的負担の軽減。						
結果 (どんな結果に結びつけるのか)	乳幼児の保健の向上及び子育て支援の充実。						
区分	指標	単位	17年度 実績	18年度 計画	18年度 実績	19年度 計画	
対象指標	指標1	八千代市に住所を有する義務教育就学前の乳幼児数	人	13,796	13,693	13,946	14,098
	指標2						
	指標3						
活動指標	指標1	受給資格認定者数	人	2,915	2,866	3,005	3,038
	指標2	助成件数(現物給付ーレセプト換算)	件	133,785	200,305	173,870	226,354
	指標3	助成件数(償還払いー領収書換算)	件	4,359	6,526	4,848	6,477
成果指標	指標1	受給資格者数	人	12,025	12,104	11,990	12,288
	指標2	助成金額	円	230,014,925	344,382,000	307,777,366	415,500,000
	指標3						
上位成果指標	指標1	地域医療体制が整っていると感じている市民の割合	%			44.2	
	指標2	市外医療機関への搬送率	%			31.6	
	指標3	覚地から医療機関へ収容するまでの平均時間	分			31	

コード	3792	事務事業名称	乳幼児医療費助成事業		所属名	元気子ども課	
	単位	17年度		18年度		19年度	
		実績		計画		実績	
事業費 (A)	財源内訳	国	千円				
		県	千円	81,683	88,525	83,420	99,088
		地方債	千円				
		一般財源	千円	159,837	278,548	242,971	335,163
	その他	千円	2,196		3,965	1	
主な事業費の内訳		扶助費232,212 手数料10,770		扶助費344,382 手数料17,404		扶助費311,743 手数料13,586	
人件費(B)		千円	11,275.8	18,639.4	25,725	25,472.4	
トータルコスト(A)+(B)		千円	254,991.8	385,712.4	356,081	459,724.4	

### 3. 事務事業の評価(S E E)

評価 類型	評価事項	評価区分	理 由	
目的 妥当性	①事業目的が上位の施策に結びついているか？	<input checked="" type="checkbox"/> 結び付いている	乳幼児の医療費を助成することで保護者の経済的負担が軽減され、乳幼児の保健が向上する。	
		<input type="checkbox"/> 結び付くが見直しの余地がある		
		<input type="checkbox"/> 結びつきが弱い・ない		
		<input type="checkbox"/> 評価対象外事項		
②すでに所期目的を達成しているか？ ※「達成している」を選んだ場合、⑥に進んでください。	<input type="checkbox"/> 達成している	少子化の進行に伴い、次世代育成支援の観点からも、尚一層の乳幼児の保健の向上及び子育て支援の充実が求められている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成していない			
	<input type="checkbox"/> 評価対象外事項			
③民営化で目的を達成できるか？ ※民営化・・・事務事業の全部又は一部の実施主体を全面的に民間事業者等に移行すること。 (民間委託は、権限に属する事務事業等を委託することで、民営化とは異なる。)	<input type="checkbox"/> 可能性はある	県の補助事業であり、医療費の扶助という性質からも民営化にはそぐわない。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 可能性はない			
	<input type="checkbox"/> 評価対象外事項			
④「対象」・「意図」の設定は現状のままで良いか？	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のままでよい	県の補助事業として変化がないため、現状のままでよいと考えられる。しかし、次世代育成支援の観点から、今後は対象の拡大について検討する余地がある。		
	<input type="checkbox"/> 見直す必要がある			
	<input type="checkbox"/> 評価対象外事項			
有効性・ 効率性	⑤今後、有効性や効率性を向上させる可能性はあるか？ 可能性がある場合は、⑤-2, 3を記入する。 可能性がない場合は、理由を記入する。	<input type="checkbox"/> 有効性向上の可能性はある	関係機関との連携を深めることでサービスの質を向上させ、事業としての有効性を上乘せすることも可能と思われるが、事業の規模に比べれば、その効果はごくごく一部に限られる。また、事務的経費が増加し、逆に事業としての効率性を損なう可能性もある。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 効率性向上の可能性はある		
		<input type="checkbox"/> 両方可能性はある		
		<input type="checkbox"/> 可能性がない		
	⑤-2 有効性や効率性を向上させる手段は何か？ 該当する手段を選択し、具体的な方法と得られる効果を記入する。手段が「類似事業との統合・役割見直し」である場合は、該当する類似事業を記入する。	<input type="checkbox"/> 民間委託等	受給資格の管理及び医療費の助成において、一連の事務作業を他の業務（主に児童手当）との連携も含めた大きなシステムとして捉え、その中で電算入力を始めとする単純作業部分を臨時職員に担わせることで、人件費の節減が図れる。また、臨時職員で対応した分の正規職員が医療費に対する審査・確認を強化することで、扶助費そのもののスリム化（適正化）が見込まれる（但し、事務的経費の増加に見合う効果が得られず、結果として効率性が向上しない可能性もある）。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 臨時的任用職員等の活用		
<input type="checkbox"/> I T化等業務プロセスの見直し				
⑤-3 推進にあたっての課題はあるか？(一時的な経費増・市民の理解等)	<input type="checkbox"/> 類似事業との統合・役割見直し	類似 事務 事業 名称	1	実施主体 (所管部署)
	<input type="checkbox"/> 上記以外の方法		2	実施主体 (所管部署)
	<input checked="" type="checkbox"/> ある	事務作業システムを構成する人員・機器類の適切な配置及び環境の整備。システム全体を把握・管理できる職員の確保。		
	<input type="checkbox"/> ない			

コード	3792	事務事業名称	乳幼児医療費助成事業			所属名	元気子ども課																				
今後の方向性	⑥この事務事業の今後の方向性を選択し、その詳細について右欄に記入する。		<input checked="" type="checkbox"/> 改革・改善して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 手法プロセスの改革・改善 <input type="checkbox"/> 事業規模の拡大・縮小 <input type="checkbox"/> 統合・役割見直し <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続			事業内容そのものは現状のまま継続ということになるが、今後予想される対象の拡大等に備え、より効率的な事業の在り方を検討していく必要がある。																					
	⑦この事務事業の今後の経費・成果の方向性について選択し、右欄に理由を記載する。		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">経 費</th> </tr> <tr> <th>削 減</th> <th>不 変</th> <th>増 加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">成 果</td> <td>向 上</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>不 変</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>低 下</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </tbody> </table>					経 費			削 減	不 変	増 加	成 果	向 上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	不 変	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	低 下	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	医療費の扶助で成果を上げるほど、主たるコストである扶助費が増大する。
		経 費																									
		削 減	不 変	増 加																							
成 果	向 上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>																							
	不 変	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																							
	低 下	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																							

この事務事業に対する市民や議会の意見（担当者が把握している意見） ※内部サービス業務の場合は、住民ではなく、サービス利用者、関連部門の意見や実態など	
I 助成内容の拡充：①対象年齢の引上げ（中でも小児慢性特定疾患対象者や小児喘息患者に対して） ②保護者負担の廃止 II 助成方法の改善：①社保加入者及び償還払い時の高額療養費等の受領委任 ②柔道整復の現物給付 ③県外受診の現物給付 III 申請手続きのIT化：（前段階として）申請書類のインターネット配布 IV 国の制度の創設	

所属長コメント	県の補助事業として、今後も引き続き乳幼児の保健の向上と子育て支援（経済的負担の軽減）の充実を図って行きたい。	
評価調整委員会意見	<input checked="" type="checkbox"/> 改革改善して継続 <input type="checkbox"/> 手法プロセスの改革・改善 <input checked="" type="checkbox"/> 事業規模の拡大・縮小 <input type="checkbox"/> 統合・役割見直し <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続	事業の拡大については経費の増加が伴うことから長期的な見通しを含めて十分検討し推進すべき。